

都市再生整備計画 事後評価シート
鶴岡山王地区

平成25年3月
山形県鶴岡市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県		市町村名	鶴岡市		地区名	鶴岡山王地区			面積	20ha		
交付期間	平成22年度～23年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	270.3百万円	国費率	0.449				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道南町荒町大宝寺町線、市道大泉橋一日町線)、地域生活基盤施設(案内板整備事業、長山邸跡地整備)										
		提案事業	事業活用調査(事業効果分析調査)、まちづくり活動推進事業(ワークショップ開催)										
	事業名												
	削除/追加の理由												
	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響												
当初計画から削除した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	事業活用調査(事業効果分析調査)											
新たに追加した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	なし											
交付期間の変更	当初	平成22年度～24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			なし						
	変更	平成22年度～23年度											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	山王通りの歩行者数	人	133	H20	104	H24	270	169	○	あり	従前値が晴れの休日であるのに対し、評価値は雨の休日であったことから、天候に関わらず確実に来街者が増加していると考えられ、事業効果が認められる。	
										なし			
指標2	山王商店街の店舗数	軒	53	H21	54	H24	57	59	○	あり	本事業と併せて実施したまちづくり会社によるテナントビル整備事業の成功により、店舗が増加した。		
									なし				
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況	一部拡幅した歩道を使い、デイバザール、屋台など新たな賑わい創出のイベントが数多く手がけられ好評を博している。また、区域内にある歴史的価値の高い店舗について、改築して観光拠点にするなどの新たな動きがあり実現されようとしている。												
5) 実施過程の評価	実施内容												
	実施状況												
	今後の対応方針等												
	モニタリング	H20以降毎年中心市街地交通量調査を実施するとともに、商店街の店舗数調査を実施した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		● 今後も調査を継続しまちづくりの指標とする。			
住民参加プロセス	山王商店街および山王まちづくり株式会社とのワークショップを行い、市が実施する基盤整備とまちづくり会社が行なう空間整備とのマッチングを図った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		● ワークショップは引き続き開催し今後のまちづくり事業を推進する。				
持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり協定に基づくまちづくり活動を継続的に実施し、商店街への新規参加者を促進した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		● 山王商店街が立ち上げたまちづくり会社を核に、今後とも持続的なまちづくりを推進する。				

様式2-2 地区の概要

鶴岡山王地区(山形県鶴岡市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 中心商店街の再整備とまちづくり活動の活性化により商店街の活性化を図る。	山王通りの歩行者数	単位: 人	133 H20	104 H24	169 H24
	山王商店街の店舗数	単位: 軒	53 H21	54 H24	59 H24
目標①: 空き地、空き店舗の再整備とみち広場の整備による賑わいのあるまちづくりを進める。					
目標②: まちづくり協定に基づくまちづくり活動事業を継続的に実施し、商店街への新規参加者を促進する。					

■基幹事業

- 道路
・市道南町荒町大宝寺町線整備

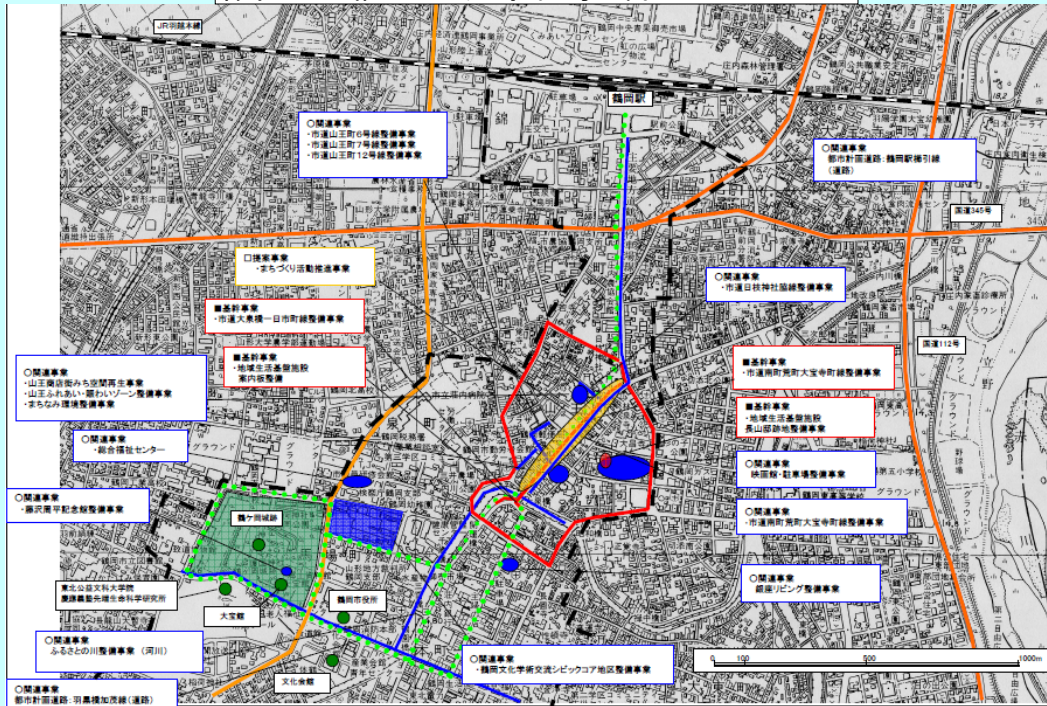


■基幹事業

- 道路
・市道大泉橋一日町線



都市再生整備計画区域 事業一覧 鶴岡山王地区 20ha



■基幹事業

- 地域生活基盤施設



■基盤施設



まちの課題の変化

- ・イベントの集客力が向上し、各店も戦略的にイベントに参加するようになり、売上が向上した。
- ・廃業する際はテナント貸しできるようにするというまちづくり協定を全組合員が締結したが、テナント整備はコストがかさむためなかなか実行できない。
- ・まちなかキネマ(映画館)の駐車場が無料開放しているため、駐車場不足が解消された。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・商店の建替えに際してはテナント貸しできるように改築することを推進するため、専門的にアドバイスする建築士会による無料相談事業「まちづくり相談所」の開設する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道南町荒町大宝寺町線	223.4	476m	231.5	476m	事業費精査による事業費増	影響なし	●	
道路	市道大泉橋一日市町線	32.6	72m	32.6	72m			●	
地域生活 基盤施設	案内板整備事業	3	4箇所	1.0	4箇所	事業費精査による事業費減	影響なし	●	
地域生活 基盤施設	長山邸地整備	1.6	90㎡	1.6	90㎡			●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調	事業効果分析調査	2		0.0		直営にて実施	影響なし		●
まちづくり 活動推進 事業	ワークショップ開催	3.6		3.6				●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
都市計画街路事業		鶴岡駅櫛引線	1,328	1,328	H10～H17	H10～H17	完成		
まちづくり交付金事業		南町荒町大宝寺町線	621	621	H17～H21	H17～H21	完成		
地域活力基盤創造交付金事業		山王町6号線	17	17	H23～H24	H23～H25	賑わいゾーン整備に併せ将来実施		
地域活力基盤創造交付金事業		山王町7号線	46	46	H23～H24	H23～H25	賑わいゾーン整備に併せ将来実施		
地域活力基盤創造交付金事業		山王町12号線(仮称)	51	51	H23～H24	H23～H25	賑わいゾーン整備に併せ将来実施		
戦略的中心市街地商業等活性化支援事業		ふれあい・賑わいゾーン整備事業	268	268	H22～H24	H22～H25	ふれあいゾーンのみ完成		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	H23	270	モニタリング	○	あり	なし	
指標1	山王通りの歩行者数	人	H9～H20までの減少率77%を、事業効果を反映し68%に改善するものとして目標値を算定した。調査場所：阿部久書店前、調査方法：12時間調査(7時～19時)	214	H15	133	H20	104	H24	モニタリング	H23	270	モニタリング	○		
										事後評価	確定 ●	169	事後評価	○		
指標2	山王商店街の店舗数	軒	商店街振興組合による聞き取り調査	57	H18	53	H21	54	H24	モニタリング	H23	57	モニタリング	○		
										事後評価	確定 ●	59	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	道路が完成し、路上を使うデイバザール、夢屋台などの新たなイベントにより来街者が増加した。また商店街によるテナントビル整備により、これまで少なかった飲食店が増え、来街者が増加した。	
指標2	商店街が整備したテナントビルに4店舗出店したほか、イベント開催などにより出店希望者が増えている。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 ※2 目標達成度の記入方法
 ○：評価値が目標値を上回った場合
 △：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 ×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1									
その他の 数値指標2									
その他の 数値指標3									

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
H20以降毎年中心市街地交通量調査を実施するとともに、商店街の店舗数調査を実施した。	予定どおり実施した	● 【実施頻度】指標1については毎年1回、指標2については随時 【実施時期】指標1については毎年9月、指標2については随時 【実施結果】指標1については中心市街地全域で実施。指標2については随時商店街より聞き取りしている。	今後も調査を継続しまちづくりの指標とする。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
山王商店街および山王まちづくり株式会社とのワークショップを行い、市が実施する基盤整備とまちづくり会社が行なう空間整備とのマッチングを図った。	予定どおり実施した	● 【実施頻度】随時(年5回程度) 【実施時期】随時 【実施結果】課題を洗い出して対応策を検討・実施している	ワークショップは引き続き開催し今後のまちづくり事業を推進する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
まちづくり協定に基づくまちづくり活動を継続的に実施し、商店街への新規参加者を促進した。	予定どおり実施した	● 山王商店街まちづくり委員会からLLPアクティブ山王を経て山王まちづくり株式会社を立ち上げた。	山王まちづくり株式会社： 商店街振興組合の組合員出資による株式会社。テナントビルの整備・運営、空き店舗への新規出店のサポートを実施。	テナントビルの運営、イベントの企画、空き店舗の活用を実施。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
山王まちづくり会議	建設部 都市計画課 商工観光部 商工課 鶴岡山王商店街振興組合 山王まちづくり株式会社	毎月開催	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2							
指標名		山王通りの歩行者数		山王商店街の店舗数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	[道路]市道南町荒町大宝寺町線	◎	歩行者空間の快適性向上とふれあいゾーンの整備による相乗効果によって歩行者数が上昇したものと考えられる。	◎	ふれあいゾーンのテナントビル整備により4店舗増加したほか、イベントなどの相乗効果により、山王商店街に出店したいという起業家が増加した						
	[道路]市道大泉橋一日市町線	◎		◎							
	[地域生活基盤]案内板整備事業	○		○							
	[地域生活基盤]長山邸跡地整備	○		○							
提案事業	[まちづくり活動推進事業]ワークショップ開催	○				○					
関連事業	[都市計画街路事業]鶴岡駅櫛引線	○				○					
	[まちづくり交付金事業]南町荒町大宝寺町線	◎				◎					
	[地域活力基盤創造交付金事業]山王町6号線ほか	△				△					
	[戦略的中心市街地商業等活性化支援事業]ふれあいゾー	◎				◎					

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	古くからの町屋をリフォームして拠点化する事業が進行しており、イベントとの相乗効果により集客力の向上を図る	建替える際はテナント貸しできるようにするというまちづくり協定を再確認し、新たな出店を促す		
-------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
山王まちづくり会議	建設部 都市計画課 商工観光部 商工課 鶴岡山王商店街振興組合 山王まちづくり株式会社	毎月開催	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
イベントが個店の売上アップに直接つながっていない	イベントの集客力が向上し、各個店も戦略的にイベントに参加するようになり、イベント時の売上が向上した。		
後継者不足により廃業する店がある	建替えする際はテナント貸しできるようにするというまちづくり協定を全組合員が締結した。	まちづくり協定は締結しているものの、テナント整備はコストがかさむためなかなか実行できない。	
個店の魅力不足、駐車場不足から来街者が減少している	まちなかキネマ(映画館)の駐車場が無料開放しているため、駐車場不足がある程度解消された。	個店の建替えやまちづくり会社・NPOによる町屋の再生事業により魅力ある店づくりが成されている一方で、店主の高齢化、後継者不足による活力のない店も多く、今後の課題となっている。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	イベントを商店街だけでやらずに、NPO、大学、市民等に拡大して実施することで集客力の向上を図る	商店街のイベントからよりいっそう市民を巻き込んだイベントに拡大し、様々な主体が表現する場として商店街を活用する	・ナイトバザール・デイバザール ・おひやさ祭り ・桜小祭り ・山王新酒祭り
	山王商店街とまちなかキネマとの連携	まちなかキネマは、「(株)まちづくり鶴岡」が中心市街地活性化のために整備した映画館であり、山王商店街の近隣に立地している。駐車場、エントランスで連携したイベントを同時開催するなど連携した事業を行っており、今後も更に連携を深める	・駐車場無料開放 ・半券による商店街の割引

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	商店の建替えに際してはテナント貸しできるように改築する	テナント貸しすることで個性的な店舗数を確保し商店街の活性化を図る	改築について専門的にアドバイスする建築士会による無料相談事業「まちづくり相談所」の開設

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	山王通りの歩行者数	人	133	H20	104	H24	確定 ●	169	○	あり	→			
							見込み			なし	→			
指標2	山王商店街の店舗数	軒	53	H21	54	H24	確定 ●	59	○	あり	→			
							見込み			なし	→			
指標3											→			
指標4				H		H	確定			あり	→			
							見込み			なし	→			
指標5				H		H	確定			あり	→			
							見込み			なし	→			
その他の数値指標1											→			
その他の数値指標2											→			
その他の数値指標3											→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	市が実施した基盤整備と商店街が実施した空間整備との相乗効果により集客力が高まった。また各種イベントの集客数の増加により、新規出店者が増加した	ハード整備とソフト事業を同時に行なうことで相乗効果が発揮されるので、戦略的に組み合わせることが重要
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	商店街活性化での指標として、またみち広場整備による賑わいのあるまちづくり事業の指標として、歩行者数、店舗数は最も整合した指標である	数値目標は事業評価に必要不可欠であるため、事業との整合性を十分に検討したうえで設定する必要がある
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	ハード・ソフトともにワークショップを数多く開催し事業に反映させた	市民の意見を反映した計画にすることは重要である
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	数値目標を設定することにより事業評価が明確になるため、次期計画における課題が具体化する	具体化した課題を整理し次期計画に反映させる
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・藤島元町地区(第2期) 平成27年度事後評価予定。
- ・次期計画については、歴史的風致維持向上計画を策定中であり、今後この計画に位置づけられた具体の事業について、都市再生整備計画を策定し交付金を活用し事業化を図る。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成25年2月18日～28日	平成25年2月18日～28日	担当者への電話、FA X、電子メール、閲覧で の意見書(郵送、持参)	建設部都市計画課(都 市再生整備計画事業 担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	—	平成25年2月15日発刊 広報2月15日号	平成25年2月18日～28日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当課窓口で閲覧	平成25年2月18日～28日	平成25年2月18日～28日		

住民の意見	住民の意見はなかったが、フリーペーパー発行者(コミュニティ新聞社)の取材を受けた。
-------	---

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	上木 勝司(山形大学客員教授(鶴岡市都市計画審議会会長))	平成25年3月12日	建設部都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)	鶴岡山王地区都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	稲泉真彦(鶴岡市景観審議会会長) 三浦新(鶴岡山王商店街振興組合理事長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	指標1及び指標2の評価方法については妥当であると了承された。
	成果の評価	指標1について、目標達成できた理由として、無電柱化による開放感の形成、段差解消と融雪設備による歩きやすさの向上により、歩いてみようと思う人が増えたのではないかと意見があった。また、歩く人が増えたことや、景観が向上したことで、クルマのマナーも良くなったように思うとの意見もあった。一方、これだけ歩きやすい道路なので、もっと周知する必要があるとの意見もあった。
	実施過程の評価	住民参加プロセスでは、商店街ががんばったことは評価するが、もっと広い市民参加があってもよかったのではないかと意見があった。これに対し商店街では、以前は多くの市民参加ワークショップによってナイトバザールを育てたこともあったが、今回は関連するハード事業を実施するに当たり責任ある人を中心に実施した。今後はソフト事業が中心になるので、引き続き実施するまちづくりワークショップには、もう少し広い参加を求めていくとの回答があった。
	効果発現要因の整理	指標1について、歩行者が増えたのはいいが、高齢者が多い中で歩きっぱなしでは疲れるので、喫茶店や物産館など、途中で休める施設があるべきだとの意見があった。商店街からは、古い町屋の再生事業が2箇所で行われており、そこに喫茶室、観光拠点的な整備を行なうとの回答があった。指標2について、若い人が商店街への出店に関心を持ってくれるようになったが、すぐに開店に結びつく物件がない。昔は商店を売却したお金で郊外に家を買えたが、今は地価が逆転しているため、廃業したい人が商店街から出て行けなくなっているとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	添付様式4-②指標2の今後の活用「廃業する際は」を「建替える際は」に訂正するようにとの意見があり修正することとした。
	その他	なし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当に進められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	商店街理事長より、長期的に減少が止まらなかった売上が、事業後回復したという店が出てきていること、イベントの集客力が向上しイベント時の売上が向上していること、中には通常時の売上が以前の水準に戻っていない店もあるが、全体的には事業により好転しているとの意見があった。様式5-②中段、「廃業する際は」を「建替える際は」に修正するようにとの意見があり、修正することとした。まちなかキネマの駐車場無料開放により、駐車場問題がある程度解消されたことは事実であるが、知らない人も多く、完全に解消されたわけではないので表現を変えるべきであるとの意見があり、「ある程度」を追加することとした。山王新酒祭りはまちなかキネマとの連携を前提にはしていないので、上段に移すべきであるとの意見があり、そのように訂正することとした。
	フォローアップ	—
	その他	なし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当であることを確認した。
その他	なし	